

堺市・羽曳野市・藤井寺市  
3市議会合同議員研修会  
平成29年8月7日  
研修会記録（概要録）

講師

阪南大学国際観光学部教授 来村 多加史（きたむら たかし）氏

堺市議会  
羽曳野市議会  
藤井寺市議会

世界遺産に登録された東アジアの大型墳墓  
—環境整備の前例と課題—

（挨拶）

○松村尚子羽曳野市議会議長

（講演概要）

○来村講師

先週月曜日の7月31日に百舌鳥・古市古墳群が世界文化遺産の国内推薦を受けることが決定し、大々的に報道されました。世界遺産への登録をめざして尽力してこられた方々には、喜びもひとしおのことと存じますが、これからが真の正念場です。2019年夏にユネスコ世界遺産委員会で審議されるまでの2年間に、より一層の努力が求められます。世界遺産の登録推進事業は観光事業の一環として捉えられがちですが、主旨は遺産を守ることにありますので、ICOMOSにはその方面のアピールが必要です。

そのために、遺産保護の方面における隣国の事例を紹介します。

海外では大型墳墓が世界遺産に登録された事例は、既に何例もあります。中国の西安にある秦の始皇帝陵や河北省にある清朝皇帝の陵墓群である清西陵・清東陵、北京市にある明朝皇帝の陵墓群である明十三陵、遼寧省にある清朝の創始者のヌルハチ等の追尊陵墓である関外三陵、南京市には明太祖朱元璋の陵である明孝陵があります。

朝鮮半島においても、中国吉林省にある高句麗国の王陵群、韓国のソウル近郊にある李氏朝鮮の王陵群である朝鮮王陵、古代に日本と戦った新羅国の王陵

群である大陵苑が韓国の慶州市にあります。

いくつかの事例を紹介しますと、まず、兵馬俑で有名な秦の始皇帝陵は、1987年に世界遺産登録されましたが、墳丘の大きさは仁徳陵とほぼ同等です。長さは仁徳陵の方が長く、幅は始皇帝陵の方があります。

始皇帝陵は、もともと墳丘だけでなく、その外側に陵園内区とさらに外側に陵園外区という地域で囲まれています。昔の写真を見ると、墳丘の周り是一片の畑でしたが、今は緑地帯のようになっています。

また、始皇帝陵の近くには驪山という山地があり、雨が降ると川があふれるほどに水量が増えるため、昔から防洪堤が築かれていましたが、現在は始皇帝陵や兵馬俑に来る観光客むけの観光道路が作られ、その道路が昔の防洪堤跡を斜めに分断しています。兵馬俑博物館の近くでは、村落が撤去され、大面積の緑地公園と商業施設が作られました。世界遺産の観光利用は歴然としています。

次の事例として、中国と北朝鮮との国境近く、中国側にある高句麗の王陵は、都城も含めて2004年に世界遺産登録されました。

高句麗の王陵は日本軍を撃退したことで有名な好太王の陵や碑だけでなく、平常時に都としていた国内城、外部から攻められたときに何年も立てこもることのできる山中の丸都城なども含まれた遺産です。

好太王の碑は私が北京大学留学中に行きました。その時には、碑に触れることができましたが、現在は碑の周りにガラスの壁が作られ、警備が厳重になっています。

長寿王の將軍墳の近くに、近年谷を削って何かの施設を作ろうとしていることが、グーグルアースの写真から見て取れます。そのような環境破壊が進む一方、国内城は逆に城壁が必要以上に復原され、住民が立ち退かされました。

3つ目の事例として、大韓民国慶州市にある新羅の王陵では、石窟庵と仏国寺は1995年、慶州地域の陵墓や宮城は2000年に世界遺産登録されました。宮城は日本円で900億円の巨費を投じて寺院や宮殿を強引に復原する計画があります。陵墓区は公園の整備に伴って住宅の大々的な撤去が行なわれています。

このような莫大な財力を投じた世界遺産の公園化が中国や韓国の方針で、ここでは「中韓スタンダード」と呼びましょう。

さて、我が国の百舌鳥・古市古墳群は都市化された住宅地の中にあります。1948年の航空写真と2016年の航空写真を見比べてください。百舌鳥古

墳群、古市古墳群とも、1948年には周りは田んぼが多かったが、今ではどちらとも住宅地の中に点在して見えます。

ICOMOSでは、中国や韓国の委員の発言力が強いと聞いています。彼らの「中韓スタンダード」を百舌鳥・古市古墳群に当てはめるなら、かなりの面積の住宅地を公園化してバッファゾーンを確保しなければなりません。地価が高く、市民の居住権が守られた日本では、とうてい無理な話です。

それでは、「中韓スタンダード」の壁を乗り越えるためには、どうしたらよいでしょうか。私は、発想を変えて、古墳と共生する人々と居住地こそが古墳を守るバッファゾーンであることを強調すればどうかと考えます。バッファゾーンは中韓のような、居住地を撤去して作る緑地公園でなくてもいいのではと思う次第です。

市民や訪問者のみなさんが、大規模な古墳よりも、むしろ住宅地に囲まれた小さな古墳を大切に、花を咲かせて彩りを添えるような運動を展開してはどうでしょうか。私はそれを「まい古墳運動」と名づけます。そのような市民運動を通じて文化遺産に対する意識を高めていくことが、登録承認への確実な道ではないかと思えます。

そういったことを提案しまして、私のお話を終わります。

(閉会挨拶)

○畑 謙太郎 藤井寺市議会議長